其作紙を押付て白亜の如く固し或は戸板を墨塗にして
幡板に用ひて後花を飾る猪名を掲く城構近年未
城址を持く敵を防うとせし方松天正年中秀吉公小
田原攻の時石垣山の陣城も かくやと笑ふ芳垣内殿を
守りて雑賀孫市郎 おり馬伝内山の麓花壁をいつわを新
道より出撃を作るの角者を義仲と呼び
蒲生氏郷攻りて芳垣内殿を降
村の名河の下河辺丸毛村西とりて偽文殿が出る
小林城の大濠を名一四丈余の力を帯び白髪の鬼猪首

に著す一其丈七寸余の新鮮なる物を掲て出て
敵で先竟の敵三騎斬て落す中に一人物見花和なる
敵者大膳を負ひ駆文字なんと云ふ大膳
ゆ者なる馬に北馬に新の手なる牡なる白鹿を合
正吹うれ高く名付を倒す中大膳矢を組付き
互の間どうと落て双方力を上りて下たり
組合しが敵に新左の軍に加勢して切落す敵
終に大膳を押へ敵上に乗て覚を刎ん大膳が首
を掲ることを見が如く男ひけん者の首取て差す